

Q：原子力発電は効率の悪い発電方式だと聞きましたが、
本当ですか？

原子力発電は、核分裂で発生するエネルギーを水蒸気に変換して
タービンをまわす原理と聞きました。

しかも放射性廃棄物の発生などの核のリスクを負うほどの効率的
な発電にはならないという話ですが、本当ですか？

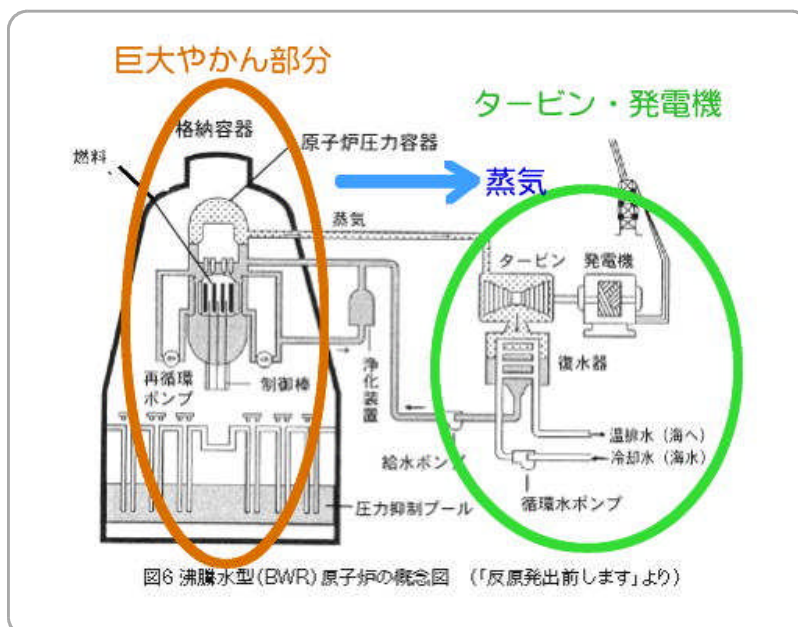
A：そうです。

大きな湯沸かし器
＝やかんと同じ事
を、核物質を使って
行なっています。また
発電効率も約 30
%前後で決して高く
はありません。日本
では必要な電力を確保
するのに、まず原子力
をベースとして発電し、
それを補うのに比較的出力の

大きい火力や水力を使用するため、小回りが利かない発電体制となっ
ています。電気は溜めておく事が出来ず、夏場の最大需要・ピーク
に合わせて供給力を確保するために、エネルギー政策に基づきベ
ースとなる原発を稼働させているというのが現状です。

このメリットに対して、大きなデメリットとして、

- ①：活断層上の立地により地震の際に事故が起きる危険性、
- ②：事故が起きた際の放射能の放出、
- ③：運転後に発生する核のゴミの問題などがあります。



プルトニウムの半減期は 2 万 4000 年、管理にはおよそ 30 万年（半分になるのに 2 万 4000 年、4 万 8000 年では 75 % 減）が必要と考えられています。

にも拘らず、核のゴミが発生する事がわかっていながら、その処分方法は未だ考えられていません。ガラス固化体にして空冷、地層処分をして埋めるなどの方法が考えられていますが、地層処分には安定した地層がどこにもなく、地層に含まれる「塩分」がガラス固化体を破壊してしまうという問題があり、破壊されれば深い地層に放射能が出て地下水脈が汚染し、それが飲み水となって生活を脅かす事になります。

将来子々孫々にツケを廻す事が前提の「原子力エネルギー」、受益を得られる世代とリスクを背負わされる世代間の圧倒的な数の違いや格差について、日本人全員が真剣に考えなくてはならない時に来ています。